


# 会社の実態を理解し、優良企業に向けスタートしよう

花あかり（新しい大人の提案）

代表 長谷部 勲

mail : hanaakari\_nakama@yahoo.co.jp

<http://isao130.sakura.ne.jp>

花あかり 快適人生 

昨年も企業倒産件数が15,000件を超えました。総務省の事業所・企業統計調査によれば、平成6年時点の個人企業と会社企業を合わせた企業数は424万社あり、1年間に22万社が開業するものの廃業企業は27万社と、開業より5万社・23%も上回っています。夫々の経営者はみんな一生懸命仕事をしているのですが、残念ながら全体の6%を超える企業が、市場から撤退を余儀なくされています。

このような現実を直視し、長年にわたって大切に経営してきた会社であるから、経営者本人はもとより、苦楽を共にしてくれる大切な従業員のためにも、まず、会社は潰さないこと、そして適正な利益をあげて税金を納めること、残った利益を積みあげて企業体力を付けながら、計画的に将来への再投資をすることは経営者の基本的な使命です。

現時点で最新の、平成18年事業所・企業統計調査によれば、会社と個人事業者を合わせた中小企業数は419.8万社で、企業全体の99.7%を占めます。また、会社だけで見ると、中小企業の会社は149.3万社あるので、99.2%が中小企業です。つまり、国内企業の大半が中小企業なのです。

経営者が「何とかしようと考えているだけ」では、優良企業にはなりません。まず、最初はその大切な会社の実態を理解することから始めて、次に、優良企業に向けた経営の改善テーマを整理していきます。そして、いつまでに、どんな会社になりたいという計画をたてて、勇気をもって具体的な一歩を踏み出しましょう。繰り返しますが、経営はとにかく一生懸命頑張れば、何とかなっていくというものではありません。成功する企業には経営の原理原則があり、それを経営の現場でどうやって血肉化していくかでありませぬ。頑張れば何とかなるといって、経営の基本も学ばない経営者のもとで働く従業員こそ不安です。安心して人生をかけて本気で働くことはできないでしょう。

まず、別紙で「小規模会社の実態と優良企業に向けた経営の改善テーマ」として、中小企業庁の「平成21年度中小企業基本調査」をもとに建設業関連データを整理しました。これでもまだ数値の羅列なので産業全体と建設業を比較して従業者や売上、営業費用、経常利益などを視覚的に理解できるよう、グラフを多用して解説しました。次は、一人当たり生産性、企業が抱える現状の問題、正しい経営の原理原則などへの展開も予定します。

私も、正しい経営のあり方を本気で学びながら、一緒に会社をやってきた大切な仲間やコンサルタント、先輩経営者、社会から育てていただきました。これら私が実際に経営の現場で学んだことも含め、正しい経営で多くの人が幸せになって快適人生がおくれますように、一緒に勉強していけたら嬉しいです。

平成22年11月26日